

世界に軍事力は必要か

ローマ日本人学校におけるパネル・ディベート

以前、ローマ日本人学校に赴任する前に、国語の授業でパネル・ディベートを取り入れたことがありました。その反省をもとに、ローマ日本人学校でも実践することにしました。

パネル・ディスカッションの利点とディベートの利点を組み合わせます。言い換えれば、それぞれの欠点を補うためにパネル・ディベートを行いました。生徒には、以下のように説明しました。

○ パネル・ディスカッションとは

あるテーマについて、代表者（パネリスト）が聴衆（フロア）を前に自由に意見を発表し合い、聴衆からの質問によって、パネリスト同士やフロアも巻き込んで討論をするような話し合いを言う。

○ ディベートとは

一つのテーマをめぐって、相対する2つの立場に分かれて、一定のルールに従って討論し、最後に勝敗が判定されるものである。

○ パネル・ディベートとは

一つのテーマを設定し、複数の立場（班）に分かれて、それぞれの立場、視点から問題をとらえて論争し、最後に審判団が討論の優劣を決めるものである。

パネル・ディベートは4チームで行えるので、一度に多くの生徒がディベーターを体験できるという利点があります。まだまだ自分の意見を発表するという点では不十分な中学1年生でも、チームで作業を行うため、安心して取り組むことができます。

ディベートに比べると、盛り上がりには欠けることがあります。時間が短いとチーム数が多い分、たくさんの意見を出させることができません。しかし、パネル・ディスカッションの前段階の指導法として有効であり、チームとしての調べ学習にも効果的です。

パネル・ディベートのテーマと4つの立場

テーマは、生徒から出された「世界に軍事力は必要か」にしました。日本国内では、なかなか出てこないテーマかもしれません。このテーマが出てきた背景には、当時の世界情勢があったと思います。2001年9月11日に起こったアメリカ同時多発テロをはじめとして、現在でもそうですが、世界情勢が不安定なときでした。ヨーロッパのイタリアにいと、中学生でもそのことをひしひしと感じていたのだと思います。

パネル・ディベートの班となる立場は、次の4つとなりました。

- A 国際連合（不必要） B 軍事機関（必要） C 国の指導者（必要） D 国民（不必要）

今回は、中学1年生がパネル・ディベートを行い、中学3年生と教員が審判団を務めました。中学3年生は、すでに国語の授業においてディベートを経験しています。パネル・ディベートに参加するのは、今回が初めてでした。